

「参画と協働による まちづくり」

～創年の年～

中崎町長は2月15日(金)の町議会本会議において、平成25年度の施政方針演説を行い、町民の皆さんと常に向かい合い、対話することにより信頼される町政運営を進めていく決意を述べました。

また、町政運営の折り返し地点を迎え、「後半2年も全力で走り続け、これまでの取組みを更に発展させるため、『創年の年』として地域社会に生きる全ての人々が力を合わせて大磯町を創り上げるまちづくりを進めていきたい」と宣言し、町政運営への理解と協力を求めました。

新年度は、第四次総合計画中期基本計画の重点プロジェクトを推進していくため、5つの項目(『観光』『子育て支援』『健康づくり』『廃棄物対策』『危機管理対策』)に重点を置き、事業を展開していくことを表明しました。



▲施政方針を述べる中崎町長

5つの重点事項

観光

町が従来、取組んできた観光施策は歴史・景観をメインとしたものですが、今、町に必要なのは「他にはない魅力づくり」であると考えています。

新たな魅力を創出する要素は、「歴史」「景観」のほか、「健康」と「食文化」であります。

この4つの要素を結びつけ「新たな観光ビジョン」を町の魅力として明確に打ち出し、新しい観光のまちづくりを町民の皆さんと協働により進めていきます。また、関係団体や地域の皆さんに活躍していただくことで地域の活性化を図り、安定した経済基盤を創り上げていきたいと考えています。

子育て支援

子ども・子育て支援関連3法に基づき、質の高い幼児期の学校教育や保育の提供、待機児童の解消を目指し、保護者など地域の皆さんや教育委員会と一緒になり、子育て支援の充実に向けた取組みを進めていきます。子育てしやすい環境を整備することで、子育てをしたいと思う若い世代の人たちが集うことができる、魅力的な町を創り上げていきます。

健康づくり

町民の皆さん一人ひとりに健康で充実した日々を過ごしていただけるよう、「おあしす24健康おおいぞ事業」の取組みを地域の皆さんにご協力をいただきながら進めています。

この事業は、神奈川県や早稲田大学、東海大学との共同研究を発足し、民間企業からも注目されており、予防医学の大切さを普及する町独自の取組みの輪が広がっています。

引き続き、地域の皆さんや関係機関、さらには、産学協同の取組みを加え、身近な地域での各種予防事業や健康増進活動など、町民の健康づくりに取り組みます。

廃棄物対策

これまで取り組んできた1市2町によるごみ処理広域化がよい本格的にスタートします。4月からは容器包装プラスチックが、10月からは可燃ごみや資源ごみなどを平塚市の施設で処理していきます。

昨年来から、ごみ処理に係る経費を少しでも減らしたいと町民の皆さんに訴え、一緒になり取り組んできましたが、今後もごみの分別方法を徹底していただき、減量化・資源化へより一層のご協力をお願いします。なお、ごみ処理広域化におい

て本町の役割分担となっている厨芥類資源化施設については、十分に検討をした中で進めていく必要がありますので、平塚市、二宮町と協力して取り組んでいきます。

危機管理対策

東日本大震災以降、防災ミーティングを中心とした総合防災訓練の実施など、町民一人ひとりの防災意識を高め、協働による防災体制の充実を図ってきました。また、公共施設や一般住宅の耐震化、情報伝達手段の充実など災害に強いまちづくりに向けた取組みを進めるなど、防災対策にも力を注いできました。

しかしながら、「危機」というものは、自然災害以外にも、突発的な事態の発生が想定されます。このような危機に対して発生を未然に防止し、万一、発生した場合においても、被害を最小限に抑え、迅速かつ的確に対応できるように備えが必要であると考えています。

そのため、職員間の横断的な取組みによる危機管理意識の向上を図り、町民の皆さんや関係機関との情報共有を徹底した中で、様々な危機に対応できる危機管理体制の整備に今後引き続き取り組んでいきます。

◎問い合わせ

政策課 ☎内線205